

社会福祉法人 樂山会
第二椎の実子供の家
平成29年度 事業報告

平成29年度は、平成30年度からの新保育所保育指針施行に向けての準備を進めてきた。新指針のポイントである「乳児保育の充実」と「幼児期の教育機能の向上」について、研修や会議等を通して職員間で学び合った。保育において、より教育的な視点を重視して子どもの生活や活動を捉え、子どもの体験がより豊かになるような環境づくりに力を注いだ。

質の高い保育、教育の提供や職員の資質向上のために、職員は積極的・主体的に研修に参加し保育実践に努めた。

職員の人材育成においては、国の施策により職員のキャリアアップの仕組みが導入され、新しい職階層が設けられた画期的な年となった。

椎の実子供の家園舎建替えプロジェクトでは、28年度の先進保育園視察結果を生かし、「私たちの理想とする保育園」として話し合いを行いまとめとした。

重点目標

- I 生活や遊び、運動、表現活動を通して「生きる力」を育む保育の推進
- II 人材育成のための階層別研修計画の実施
- III 衛生管理、安全管理の周知及び徹底
- IV 地域活動の取り組み及び地域子育て支援の充実
- V 椎の実子供の家園舎建替事業

I 生活や遊び、運動、表現活動を通して「生きる力」を育む保育の推進

乳幼児期は、生きる力の基礎となる心情、意欲、態度、基本的な生活習慣など、人格形成にとって大切な時期であるため、生活や遊びにおける直接的・具体的な体験を通して情緒的・知的な発達や社会性を育てていくことに重点を置いた保育を心がけた。内容としては、モンテッソーリ教育の精神を主体とし、季節に応じて五感を使った様々な実体験を多く取り入れたり、一人ひとりに合わせた保育を大切にしていくなかで、子どもたちの自主性を育み、生きる力の基礎を培っていくようにした。また、縦割り保育や個別保育の中で子どもたちの社会性や協調性を育んだり、自然体験の中からたくさんの感動や喜びを表現することを楽しみながら体作りや豊かな感性を育む保育を大切にしていた。

保育士が臨床心理士または言語聴覚士から専門的なアドバイスを受けることで、プロの保育士として専門性を高めることができた。

II 人材育成のための階層別研修計画の実施

これからの保育園を担う人材として成長していけるよう、平成28年3月に策定した「椎の実子供の家、第二椎の実子供の家 研修計画」における職種、職責、経験等による階層別

研修を推進し、各職員の中期研修計画を実行した。保育士の処遇改善対策の一つとして行われるキャリアアップ政策により、経験豊富な職員へ該当研修を受講させ、組織の中核となる職員を育成していくことに努めた。

クラスリーダーの職務と権限を明確にし、リーダーシップが発揮できるようにするとともに、職員一人ひとりが明確な目標に向かって職務を全うし、職責を果たしていくために、中堅職員による相談、指導体制を継続していった。

また、平成29年度よりモンテッソーリ教員資格取得を目指し、2名の保育士が、「東京モンテッソーリ教育研究所付属教員養成コース」に入校して受講している。

Ⅲ 衛生管理、安全管理の周知及び徹底

施設内の環境を常に適切な状態に保持するとともに、施設内外の設備、用具等の衛生管理に努めるよう周知徹底した。また、保健所の指導立ち入り検査を受け、感染症防止に努めるようさらなる改善のアドバイスをいただき、早速給食ワゴンの出入については、流行期に次亜塩素酸を浸したタオル上を台車が通るようにし、保育室の菌を給食内に持ち込むことのないよう感染症の時期は対策を講じた。さらに、害虫対策としても給食室備蓄管理に関してはネズミ等にかじられない様にダンボールでの管理を廃止した。

2歳児クラスにおける園外保育時の置き去り事故を受けて、お散歩マニュアルの改善を全職員が一丸となって取り組み、保護者に説明と改善策への取組について周知を行った。

平成29年度からは、風水害の避難訓練を取り入れ、実践することで新たな視点から話し合いの場を設け、更なる危機管理体制を強化していくようにした。

「フェアキャスト学校連絡網システム」を継続活用し、年間2回保護者への連絡に活用した。

また安全で安心な給食提供を行うため、特に食物アレルギーについては、全職員が基礎知識を持ち、日常的なコミュニケーションの徹底を図り、年間を通して誤食などの事故予防に努めた。

Ⅳ 地域子育て支援と次世代育成支援の充実

積極的に戸外に出て、様々な人や体験活動を通して、子どもの情動を大いに刺激し、人への思いやりや社会性を身につけながら交流の機会を持つことができた。

地域子育て支援については、地域の実情や子育て世帯における様々なニーズを踏まえながら、地域貢献の一環として、「出産を迎える親の体験学習」「保育所体験」などを行ったり、椎の実子供の家との連携を図りながら、一時預かり事業にも大いに貢献した。また、次世代育成支援については、ボランティアや保育実習生の受け入れも定着してきた。

Ⅴ 椎の実子供の家園舎建替事業

椎の実子供の家園舎の建替えに向けて、両園職員による新園舎建設プロジェクトチームの活動を継続した。先進保育園の視察及び調査結果をもとに、取り入れたい保育内容及び保育環境のあり方を検討し、合同研修会にて具体案についての発表を行った。保育のビジョンが見えてきた。

1 園児について

園児とクラス編成

(1) 定員 120名

(2) 年齢別 ① 0歳児 9名 ② 1歳児 17名 ③ 2歳児 22名
 ④ 3歳児 24名 ⑤ 4歳児 24名 ⑥ 5歳児 24名

(3) クラス編成と職員構成

クラス名	対象年齢	定員	在籍数	保育士	職員数
たんぽぽ	0歳児	9名	9名	3名	園長 1名 副園長 1名 保育士 21名 看護師 1名 栄養士 1名 調理員 3名 非常勤職員 18名 嘱託医 1名
すみれ	1歳児	17名	17名	3名	
つくし	2歳児	22名	22名	4名	
もも	3歳児	8名	8名	2名	
	4歳児	8名	8名		
	5歳児	8名	7名		
さくら	3歳児	8名	8名	2名	
	4歳児	8名	8名		
	5歳児	8名	8名		
あんず	3歳児	8名	8名	2名	
	4歳児	8名	8名		
	5歳児	8名	8名		
合計		120名	119名	16名	
一時預かり いちご	満1歳～5歳	6名		2名	47名

4月～6月は5歳児1名、7月～8月は5歳児2名、9月は4歳児1名、5歳児1名、10月～3月は5歳児1名の欠員があった。